

火災対応マニュアル

カラフルハウス北砂教室

1. 初期対応の3原則

- ・通報・連絡

火災が発生したら直ちに119番通報し、関係者や当局へ迅速かつ正確な情報を提供する。

- ・初期消火

火災初期に消火活動を行い、拡大を防ぐ。使用可能な消火器や施設内の消火設備を活用。

- ・避難誘導

適切な避難誘導を行い、被災者を安全な場所に誘導する。非常口や避難経路の確認が重要。

2. 自衛消防活動の根拠

- ・時間の重要性

119番通報から消防隊到着までの平均8分の間を有効に活用。被害の拡大を最小限に抑える。

- ・自助努力

消防隊到着前にできる限りの初期消火や避難誘導を行う。従業員や関係者にも積極的な参加を促す。

3. 火災発生時の活動ポイント：

- ・建物構造の把握

火災の拡大を防ぐために建物の構造や使用用途を理解し、危険箇所を把握する。

- ・利用者の人数と停滞人数の確認

適切な避難誘導のために建物内の利用者数や各エリアの停滞人数を確認。

4. 状況に応じた対応策

- ・柔軟性：

火災の進行状況や被害状況に応じて適切な対応策を展開。計画的かつ迅速に行動。

- ・訓練・演習：

定期的な火災訓練や消火器の使用法の研修を通じて、従業員のスキル向上を促進。

5. 情報共有と連絡体制

- ・情報共有：

発生した火災に関する情報を全ての関係者に適切かつ迅速に共有。内外への情報提供の確立。

- ・連絡体制：

災害対応時の連絡体制を整備し、関係者や関連機関との円滑なコミュニケーションを確保。

6. 災害後のフォローアップ：

- ・ 検証と改善：

災害発生後に活動の検証を行い、問題点や改善点を洗い出す。将来の対応力向上のためのフィードバック。